

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

| 分野 | 景気の現状判断 | 業種・職種 | 判断の理由 | 追加説明及び具体的状況の説明 |
|-----------------------------|---------------|------------------|---|---|
| 家計 動向 関連 (北海道) | ◎ | － | － | － |
| | ○ | 一般小売店〔土産〕（経営者） | お客様の様子 | ・10月の売上は、2023年比で127.6%、2022年比で209.7%、2021年比で382.9%、2020年比で312.8%、2019年比で152.3%となっている。 |
| | ○ | 一般小売店〔酒〕（経営者） | 販売量の動き | ・ここしばらく取引先からの受注量が増加傾向で推移している。 |
| | ○ | コンビニ（エリア担当） | 来客数の動き | ・値頃感のある価格を維持するようになってきたことで来客数が回復しつつある。 |
| | ○ | 自動車備品販売店（店長） | 販売量の動き | ・季節商材である冬タイヤの販売量が前年比110%となっている。来客数も前年比107%と前年を上回って推移している。 |
| | ○ | その他専門店〔医薬品〕（経営者） | お客様の様子 | ・コロナ禍から時間が過ぎ、客の購買動向がようやく以前の状態に戻っている。 |
| | ○ | 観光型ホテル（スタッフ） | 来客数の動き | ・客室の稼働率が堅調に推移している。宿泊単価も下がっていない。宴会も多くの予約が入っている。 |
| | ○ | 通信会社（企画担当） | 来客数の動き | ・全体的に専門店の来客数が増加している。また、大型商業施設での出張販売も、都市部、地方を問わず、他社の通信サービスから乗り換える客が増加している。僅かではあるが、契約者数の動きが改善している。 |
| | □ | 商店街（代表者） | 来客数の動き | ・朝晩の冷え込みとともに、日中も寒くなる日が増えていく。それに伴って、当区域を訪れる周辺住民の来街頻度が低下している。また、区域内のホテルの駐車場が満車となることもなくなり、道内外からの観光客が減少していることがうかがえる。日中に買物袋を携行して歩いている人もまばらである。 |
| | □ | 商店街（代表者） | 来客数の動き | ・衆議院選挙の選挙応援などで外出を控えた人が多く、消費動向はマイナスとなった。選挙が終わったことで通常の状態に戻るとみられるが、政治的不安定な状況が続いていることが懸念材料となっている。 |
| | □ | 百貨店（販売促進担当） | 来客数の動き | ・一時的に円高に振れた影響で、前月以降、インバウンドが減少している。売上は前年を上回って推移しているものの、これは物価高の影響で客単価が上昇したことが要因である。 |
| | □ | スーパー（店長） | 来客数の動き | ・売上は前年を上回る水準で推移しているものの、相次ぐ値上げによる商品単価の上昇が要因であり、来客数や買上点数がなかなか上向いてこない。 |
| | □ | コンビニ（エリア担当） | 来客数の動き | ・インバウンドを始めとした旅行者の動きは相変わらず良いが、通勤客や通学客の購買意欲は依然として低いままである。ただし、低価格商品だけは動きが良い。 |
| | □ | コンビニ（店長） | お客様の様子 | ・買上点数が少なくなっている。 |
| | □ | 衣料品専門店（経営者） | お客様の様子 | ・円安を背景とした物価高により、客の節約志向が続いている。旅行や行事に参加する機会が減っていることで、外出着の需要が落ち込んでいる。 |
| | □ | 乗用車販売店（従業員） | 販売量の動き | ・直近の販売動向に大きな変化はみられない。販売できる車両が少ないため、受注量が上向くような要素もない。 |
| | □ | 住関連専門店（役員） | 販売量の動き | ・売上の前年比をみると、3か月前と変化がみられない。客の購買動向にも変化がみられない。 |
| | □ | その他専門店〔造花〕（店長） | お客様の様子 | ・都市部の売上は前年と同様の水準で推移しているが、地方では1割を超える落ち込みがみられる。 |
| □ | 高級レストラン（スタッフ） | 販売量の動き | ・10月の売上は何とか前年を上回りそうだ。ランチは好調を維持している。ディナーは低価格コースが中心ではあるものの、グループ客の利用がある日もみられる。高齢の顔なじみ客は足が遠のいているものの、新規客が増えている。地方では、中心部以外にも観光客が訪れており、ホテルが混雑しているとの話を聞く。 | |

| | | | |
|---|-------------------|--------|---|
| □ | 高級レストラン (スタッフ) | 来客数の動き | ・景気に大きな変化はみられないものの、観光客の減少する時期となったことから、徐々に落ち込みがみられつつある。 |
| □ | 高級レストラン (スタッフ) | 来客数の動き | ・3か月前に観光の繁忙期に入ってから、来客数が高止まりしている。10月としては来客数が多いものの、3か月前との比較では変化はみられない。 |
| □ | スナック(経営者) | 来客数の動き | ・例年10月は売り上げが良くないが、前月も今月も状況は変わっていないため、景気は変わらない。 |
| □ | 観光型ホテル (経営者) | 来客数の動き | ・国内団体客は漸減傾向にあるものの、海外からの個人客が大幅に増加している。 |
| □ | 旅行代理店(従業員) | 来客数の動き | ・夏季繁忙期は、インバウンドが前年から大きく増えており、特に韓国路線が伸びをけん引していた。下期に入ってから、国内客もインバウンドも減少しているものの、当地からの修学旅行客が増えている。台風などの影響もあったが、7月以降の国内旅客数は前年並みで推移しており、インバウンドは前年比2けた増で推移している。 |
| □ | 旅行代理店(従業員) | お客様の様子 | ・旅行の問合せ件数についてみると、ここ数か月と比べて動きがかなり落ち着いている。生活必需品を始めとした物価上昇の影響で、旅行などの娯楽にける金を絞っていることがうかがえる。また、旅行の相談件数も減っており、頭打ちとなっている。 |
| □ | タクシー運転手 | 来客数の動き | ・乗務員の採用に注力していることもあって、10月の乗務員数は前年の150人から210人まで増えている。10月のタクシー1台当たりの売上は前年並みであったが、1年前と比べて乗務員が40%増えたことで、タクシーの稼働台数が増えており、売上は前年から約40%の増加となった。ただし、採用コストがかさんでいるため、利益は前年並みであった。 |
| □ | タクシー運転手 | 来客数の動き | ・イベント関係のオーダーが微増したものの、観光客のオーダーが奮わず、結果的に来客数に変化はみられなかった。 |
| □ | タクシー運転手 | 販売量の動き | ・前年と比べて、夜間に外出する人が減っている。夜間のタクシーが余っている状態となっている。 |
| □ | 美容室(経営者) | 来客数の動き | ・良くもないが悪くもない変化のない状況が続いている。ただし、年金生活者の来店周期が以前よりも長くなっており、生活が厳しくなっていることがうかがえる。 |
| □ | 住宅販売会社 (従業員) | 来客数の動き | ・住宅ローン金利を引き上げる動きがみられることから、消費者マインドがどのように変化していくか注視する必要がある。 |
| ▲ | 商店街(代表者) | 単価の動き | ・高額品の売上が落ち込んでいる。生活必需品が値上がりしていることで、これまで高額な趣味し好品を購入していた消費者が手を出せない状況になっている。高額品の価格が上昇していることもマイナスである。 |
| ▲ | 商店街(代表者) | お客様の様子 | ・現在の景気はやや悪い。衆議院選挙の結果をみても、景気が上向くとは考えにくい。 |
| ▲ | スーパー(企画担当) | 販売量の動き | ・競合店の新規出店もあって、販売量が落ち込んでいる。メーカーによる値上げの動きは落ち着きつつあるが、相対的に商品単価が高いことが買上点数減少の要因となっている。また、これから冬季を迎えるため、エネルギーコストの上昇を見越した買い控えも進んでいる。 |
| ▲ | 衣料品専門店 (エリア担当) | 来客数の動き | ・来客数や客単価の動きが鈍くなっている。気温がやや高めに移していることも少なからず影響しているが、米の値上げなどにより、生活費全般が増えていることが大きな要因となっている。 |
| ▲ | 乗用車販売店 (経営者) | 販売量の動き | ・販売量が下振れしている。燃料価格や電気料金、生活用品価格の上昇により、家計の負担感が増していることから、客の購買意欲が低下傾向にある。 |
| ▲ | 乗用車販売店 (従業員) | 販売量の動き | ・販売状況はまずまずであるものの、全体的にみると、新型車効果が薄れていることもあって、販売量は横ばい又は若干の減少となっている。景気の先行きが不透明なこと、明るい話題が少ないことから、販売量が大きく伸びるような状況ではない。 |

| | | | | |
|-----------------|---|------------------------------|------------|--|
| | ▲ | 旅行代理店（従業員） | 来客数の動き | ・宿泊料金の高騰により、旅客単価が上昇傾向にある一方で、来客数は減少傾向にある。団体旅行については、貸切バス料金の上昇に加えて、貸切バスが予定どおりに確保できないことで、成約に結び付かないケースが散見される。 |
| | ▲ | 旅行代理店（従業員） | 販売量の動き | ・物価上昇、燃油高、円安が継続していることに加えて、衆議院選挙が行われたことも影響して、主要客である法人企業への動きが鈍化している。 |
| | ▲ | タクシー運転手 | 来客数の動き | ・衆議院選挙の影響で人の動きが鈍くなっている。 |
| | ▲ | 観光名所（従業員） | お客様の様子 | ・当地を舞台としたアニメの聖地巡礼キャンペーンが終了したことで、それまでの熱狂的とも感じた状況が平時の落ち着きを取り戻している。現在の客の様子をみると、施設の利用料金を見て入場をためらう様子がみられたり、カプセルトイレ利用客が少なくなっているなど、停滞感がある。 |
| | ▲ | 美容室（経営者） | お客様の様子 | ・いまだに食料品の価格が高騰しているため、他の物に金を使うことができない人が増えている。 |
| | ▲ | その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員） | 来客数の動き | ・観光客が減少していることで、旅客数が減っている。前年と比較しても落ち込みが目立っている。 |
| | ▲ | 住宅販売会社（経営者） | 販売量の動き | ・住宅を建てようとする動きがみられない状況が続いている。建売住宅も売れていない。一方、住宅の建築コストは高止まりしたままである。 |
| | ▲ | 住宅販売会社（経営者） | お客様の様子 | ・分譲マンションのモデルルームを来訪する客が減少傾向にある。商談にかかる期間も長期化している。 |
| | × | 一般小売店（経営者） | 来客数の動き | ・急に決まった衆議院選挙で先行きの不透明さが増しており、客の買い控えが発生している。 |
| | × | 百貨店（売場主任） | 販売量の動き | ・一時期よりも円高に振れてきたことで、インバウンドによる購買は横ばい又はやや低下している。一方、地元客は苦戦している。米不足、物価高、衆議院選挙などの影響で、来客数こそそれほど変わらないものの、買上率が低下している。 |
| | × | スーパー（店長） | 販売量の動き | ・衆議院選挙が終わらないと何ともいえない状況にある。 |
| | × | スーパー（店長） | 来客数の動き | ・客の様子をみると、5%オフやポイント還元などの企画には飛びつくが、それ以外はシビアな購買動向となっている。必要な物以外は買っていない様子がうかがえる。 |
| | × | タクシー運転手 | 販売量の動き | ・地域内で唯一の百貨店が閉店したことで、買物客による昼間のタクシー利用がなくなった。買物以外の外出時のタクシー利用も減少している。物価高の影響で交通費を節約しようとする傾向が一層強まっている。 |
| 企業動向関連 (北海道) | ◎ | — | — | — |
| | ○ | 輸送業（営業担当） | 受注量や販売量の動き | ・本州向けの生乳の出荷量は相変わらず伸びていないが、紙・パルプ製品の輸出量が増加しており、国内需要の落ち込みをカバーしている。原材料の古紙輸送も活発で、国内トレーラーの稼働率上昇につながっている。バターは保管量は見込みほど減少しておらず、この半年間3000トンをキープしている。 |
| | ○ | 金融業（従業員） | 取引先の様子 | ・物価高が足かせだが、観光客が回復傾向にあることで景気が改善しているとの声を聞く機会が増えている。また、企業業績が回復傾向にあることで、人手不足感が強まっている。企業からは、外国人雇用や省力化投資を進めるといった話が聞かれるほか、人材募集に対する応募が少ない現状を変えるため、勤務形態や雇用形態など、従業員の働き方を変える取組を模索する動きもみられる。 |
| | ○ | その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当） | 受注量や販売量の動き | ・人手不足、資材高騰などのマイナス要因もあるものの、公共投資が底堅いことに加えて、半導体関連、再生可能エネルギー関連などの民間投資も着実に行われていることから、景気はやや良くなっている。 |
| | □ | 食料品製造業（従業員） | 受注量や販売量の動き | ・10月の売上は前年並みとなっている。 |

| | | | | |
|-------------------|---|----------------------------|------------|---|
| | □ | 食料品製造業 (従業員) | 受注量や販売量の動き | ・10月の販売量は前年比プラス20%で、3か月前の7月の販売量は同プラス24%だったことから、景気は変わっていない。 |
| | □ | 家具製造業(経営者) | 受注量や販売量の動き | ・衆議院選挙の情勢なども含めて、社会情勢が不透明な状況であることから、消費動向が上向いてこない。 |
| | □ | 建設業(従業員) | 受注量や販売量の動き | ・施工者不足による建設費高騰の状況は変わらない。設計を検討する案件数が少ない状況も変わっておらず、少ない案件の取り合いとなっている。 |
| | □ | 建設業(役員) | 受注量や販売量の動き | ・工事の追い込み期に入り、各現場では年度内の完工に向けて順調に工事が進捗している。今年の道内は台風や豪雨の影響を受けることが少なかったこともあって、工事利益の確保という面でもプラスである。 |
| | □ | 輸送業(支店長) | 受注量や販売量の動き | ・前月と同様に、積雪前の駆け込み需要で建材などの輸送量が伸びているものの、人手不足で量をこなせない状況も変わっていない。また、受注価格の値上げ交渉を行っているが、厳しい返答の荷主も依然としてみられ、忙しい割にもうからない状況が続いている。 |
| | □ | 通信業(営業担当) | 取引先の様子 | ・インバウンドの経済効果もあって、これまで景況感は上向きで推移していると判断していたが、その効果に業界や地域による差があること、ここに来て燃料価格や原材料価格、建設費などの上昇が著しいことから、現在の景況感は3か月前と比べて停滞している。 |
| | □ | 司法書士 | 受注量や販売量の動き | ・個人、事業者のどちらも、不動産取引の受注量がほぼ横ばいである。 |
| | ▲ | 農林水産業(経営者) | 取引先の様子 | ・例年よりも長い猛暑の影響で、8月から9月にかけて収穫されるりんごの収穫状況が予測を下回っている。 |
| | ▲ | 金属製品製造業(従業員) | 受注量や販売量の動き | ・相変わらず新築住宅着工棟数が前年を10%以上下回っている。今後、回復するような兆しもない。 |
| | ▲ | 広告代理店(従業員) | 受注量や販売量の動き | ・広告の受注量が伸び悩んでいる。 |
| | ▲ | 司法書士 | それ以外 | ・受注量や販売単価などは例年並みであり、売上も変わらないものの、業務に必要な物品の値上げが続いている。また、食料を始めとした生活関連商品も値上がりが続いており、下がる気配がない。物価の上昇が景気悪化の大きな要因となっており、国による積極的な支援が求められる。 |
| | ▲ | その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員) | 受注量や販売量の動き | ・10月に入ってから商材の動きが非常に悪くなっている。新規案件なども少なく、数か月前よりも市況が悪くなっている。大きな工事の遅れや延期などの情報も入っている。 |
| | × | — | — | — |
| | ◎ | — | — | — |
| 雇用 関連 (北海道) | ○ | 人材派遣会社 (社員) | 求職者数の動き | ・3か月前と比べると、求職者の登録数が2割ほど増えている。年末のボーナス後の転職を見越した動きとみられる。企業が人材確保に向けて、他社より採用条件を高めに設定しようとする傾向があることから、転職によって現状よりも待遇が良くなると考える転職希望者が増えている。求人数は底堅く推移しており、12月以降は転職者数が更に増えることが予想されるため、景気の好循環が進むことになる。 |
| | □ | 求人情報誌製作 会社(編集者) | 採用者数の動き | ・紙媒体もWeb媒体も求職者の応募数に伸びがみられず、反応の鈍い状況が続いている。また、応募が少ないことでミスマッチが起きていることも懸念される。 |
| | □ | 求人情報誌製作 会社(編集者) | 求人数の動き | ・業種を問わず求人数は横ばいである。観光客が増えている一方で、観光関連の求人数に目立った動きはみられない。 |
| | □ | 職業安定所(職員) | 求人数の動き | ・当地の9月の有効求人倍率は0.84倍であり、3か月前よりも0.08ポイント上昇した。 |
| | □ | 職業安定所(職員) | 求人数の動き | ・新規求人数は前年比マイナス0.8%となっており、前年と同じような水準にある。一方、月間有効求人数は前年比マイナス5.1%となっているものの、落ち込みが大きいとまではいえない。 |

| | | | |
|---|---------------------|---------|---|
| □ | 学校 [大学] (就職担当) | 求人数の動き | ・10月以降も採用活動を継続している企業は多いが、有効求人数が前年よりも減少している。また、求職者とのミスマッチも懸念される。 |
| ▲ | 求人情報誌製作 会社 (編集者) | 求人数の動き | ・建設業や運輸業は比較的堅調であるものの、前年と比べて、ほとんどの業種で求人数が減少している。特に飲食店や娯楽業での減少が目立つ。 |
| ▲ | 求人情報誌製作 会社 (編集者) | 周辺企業の様子 | ・建設業、製造業、小売業、サービス業などが不振で、売上や資金繰りが厳しくなっている地場企業が多くみられる。大手の下請会社では、円安や株安、衆議院選挙、米国大統領選挙のあおりを受けているケースもみられる。 |
| × | — | — | — |